広陵町教育委員会だより

令和５年度　８月号　　８月９日発行
広陵町教育委員会
北葛城郡広陵町南郷583-1
TEL0745－55－1001　文責・編集　植村

君待つと　我(あ)が恋ひ居れば　我がやどの
簾(すだれ)動かし　秋の風吹く

８月の万葉集　巻8－1606　額田王
(愛しい方のおいでを恋い焦がれてお待ちしておりますと、戸口の簾(すだれ)をさやさやと動かして、秋風が吹いてまいりました。もしや、と思ったのに)

夏休みは自然体験をする絶好の時期・機会!

暦の上では、昨日が立秋でしたが、立秋とは名ばかりで日々猛暑が続いています。消防庁によると、直近の7月24日～7月30日までの全国の熱中症による救急搬送人員は、11,765人（速報値）でした。昨年同時期の6679人（確定値）の2倍近い数です。そのような中、7月28日には山形県米沢市で部活動帰りの女子中学生が熱中症とみられる症状で意識不明の状態で見つかり、その後、亡くなったという報道がありました。

このような報道を耳にすると、強い悲しみを抱くとともに熱中症を未然に防ぐ手立てはなかったのかと疑問に思うと同時にこの事故を対岸の火事とせず、これまで以上に熱中症予防対策に万全を尽くさなければならないと気持ち新たにした次第です。特に、中学校の部活動指導においては、この猛暑の中、熱中症警戒アラート等の情報収集と暑さ指数（WBGT）の行動指針に基づいた、31℃以上の場合、運動は原則中止の判断をしてほしいと再度、校長先生に伝えました。

ところで、子どもたちが待ちに待った夏休みも早、半分以上が過ぎました。夏休みの目的は、心身の休養、通常の学校生活では経験できない生活や活動の実施、自主・自律の生活態度の形成などがあります。要するに、夏休みは児童・生徒を正規の授業から解放するために設けられているようです。

私は、毎年、この教育委員会だよりの８月号で子どもたちにとっての夏休みは自然体験や社会体験の絶好の時期、機会だと書いてきました。今回も同様に日常の学校・園では味わえない様々な体験の中で、自然体験が子どもたちに与える**6つの効果**を下に示します。

①達成動機の向上
日々の習い事やスポーツ、学校の勉強に対してやる気を持って挑む力が身に付く。

②有能感の向上
自然体験の中で、難しいことが自分なりにできたという経験により、自分に対して、自信がついたり、新しいことに挑戦しようとするとき、必要になってくる自分への自信がついたりする。

③自律心の向上
自分を律する力で、がまんと責任感が身に付く。身近な例では、宿題を提出期限までにきっちり終わらせて提出できたり、約束を破らなくなったりという力が身に付く。

④他者受容感・凝集性の向上
友達の立場に立って、物事を考えるといった他の人の考えや立場を理解して受け入れることやチームでのまとまりをつくる力という凝集性が身に付く。

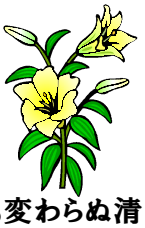
⑤自己決定感の向上
物事を、自分で判断し、決定できる力で、子どものうちから自分で判断し、決めていくという経験を、自然体験の中で繰り返すことによって、その力が身に付く。

⑥自然意識・感性の向上
自然への気付き、理解、保護の精神が身に付くということで、体験の中で、自然を肌で感じ、自分なりの価値観が生まれる。

以上のようなことから、自然体験の効果を示しましたが、自然体験の具体例は、キャンプ、ハイキング、スキー、カヌーといった**野外活動**、動植物や星の観察といった、**自然・環境学習活動**、自然物を使った工作や自然の中での音楽会といった文化・芸術活動などを含んだ**総合的な活動**などがあります。

夏休みも後半になりましたが、保護者の方々が夏休みを取れるお盆はこれからです。まだまだ暑い日が続き、熱中症の心配はありますが、ぜひ、暑さに打ち克つ自然体験をしてほしいと思います。また、夏休みだけでなく、ちょっとした休みの日でも自然体験は十分にできると思いますので、よろしくお願いいたします。

今月の一言



花は黙っています。それなのに花はなぜあんなに快く匂っているのでしょう？
思い疲れた夕など、窓辺に薫る一輪のユリの花をじっと抱きしめてやりたいような思いにかられても、ユリの花は黙っています。そして、ちっとも変わらぬ清楚な姿でただじっと匂っているのです。
牧野　富太郎（1962～1957）

現在、NHKの連続テレビ小説で放映されている「らんまん」の主人公で、「日本の植物学の父」の呼び名で一般に広く知られ、日本各地に牧野の名前を冠した顕彰施設が存在します。

多数の新種を発見し、命名も行った近代植物分類学の権威で、その研究成果は50万点もの標本や観察記録、そして『牧野日本植物図鑑』に代表される多数の著作として残っています。

2,500以上のの植物の命名を行い「雑草という草は無い」という言葉を残しています。

教育委員会関係団体の取組

七夕コンサートが開催されました！

7月9日(日)10時から広陵中央公民館開館50周年記念事業の一つで、広陵中学校吹奏楽部による「七夕コンサート」がかぐや姫ホールで開催されました。観客の皆さんは、部員に関係する保護者やおじいさん、おばあさん、友だちなどが多かったようですが、一般の方も数多く聴きに来られていました。

オープニングは、交響詩「森の詩」で、移ろいゆく森の様々な表情が感じられる、温かく叙情的な雰囲気の曲でした。続いてAdoの「新時代」、YOASOBIの「怪物」と最近ヒットしたアップテンポの曲で会場は大いに盛り上がっていました。

そのあと、私がよくロずさんだジョン・デンバーの「カントリー・ロード」を1年生部員のみでの演奏があり、初々しさが感じられました。続いて、映画「魔女の宅急便」で流れていた松任谷由実の「やさしさに包まれたなら」、そして最後に葉加瀬太郎の「情熱大陸」メインテーマが演奏され、聞き慣れた曲に会場の皆さんは拍手喝采されていました。すべての演奏が終わると自然に「アンコール、アンコール」の声がわき上がり、その声に応えて、「銀河鉄道999」が演奏されました。その演奏時には、会場から手拍子が起こり、一体感のあるノリノリの演奏となりました。およそ1時間半ほどのコンサートでしたが、部員一人一人の想い、そして心を一つにした演奏はすばらしく、観客を感動の渦に引き込んだようでした。

親子料理教室が開催されました！

7月27日(木)の9時半から、広陵北小学校の家庭科室において、学校給食研究改善協会の支援を受け、「親子で楽しくクッキング」というタイトルで、親子料理教室がありました。

「広陵町・奈良県の地場産物を知ろう!」をテーマに「親子のふれあい、料理を作ることの楽しさ、食への感謝を育むとともに、多くの人と協力することの大切さを知る」という目的で開催されました。メニューは、主食の白ごはんに、食パンキッシュ・広陵町産なすのラタトゥイエ・大和まなちりめん・野菜たっぷりスープ、そしてデザートに広陵町産イチゴのムースと盛りだくさんな料理でした。

調理前には、エプロン、三角巾、マスクなどの身支度を整え、栄養教諭の先生方からメニューの説明とともにそれぞれの調理のデモンストレーションを見た後、6グループに分かれての調理が始まりました。

親子で役割分担をして、楽しく会話しながら和気あいあいとした雰囲気での調理に、参観した私も調理に参加したいと思いました。 特にメインディッシュである食パンキッシュとラタトゥイエは使う食材も多いことから、調理に少し時間がかかっていましたが、先生方の的確なアドバイスにより食欲をそそるとてもおいしそうな料理が次々と出来上がりました。最後にそれぞれのグループで作った料理をみんなで試食しましたが、一人一人満面の笑みを浮かべ、本当においしそうに試食していました。

今年も「こどもシゴト体験博」を開催！

こちらも、広陵中央公民館開館50周年記念事業の一つで、昨年に続いて、「こどもシゴト体験博」を開催しました。今年は、昨年と同様の警察、消防士、アナウンサー、イタリアンシェフ、花屋さん、ナース、新聞記者、図書館司書のシゴト体験のほか、CA(客室乗務員)、バスガイドのシゴト体験が新たに追加され、10種類の仕事の中から体験したい仕事を2つまで選べることになっています。子どもたちは親御さんに付き添われてロビーでの受付を済ませ、それぞれの体験場所に足を運んでいました

バスガイドのシゴト体験

私もすべてのブースを見て回りましたが、どのブースでも教えていただいている方々が、懇切丁寧に親身になって教えていただいている姿に感動すると同時に子どもたちが将来、この仕事に就いてほしいという想いがひしひしと伝わってきました。子どもたちには、将来、就きたい職業に夢をもってもらうとともにこのような仕事を体験するキャリア教育を教育委員会としても推進していきたいと思いました。

CAのシゴト体験

文化協会の「絵画展」「写真展」が開催される！

広陵町文化協会所属の絵画クラブによる作品展が7月28日(金)～8月3日(木)まで、写真部による作品展が8月5日(土)～8月10日(木)までエコール・マミ北館1階のセントラルコートでありました。日々、活動の中で制作されたすばらしい作品の数々が展示されていて、見に来られた人たちの足を止めるとともに一つ一つの作品から漂う作者の情熱を感じておられました。このような作品展は広陵町の文化芸術の振興に寄与していただいており有り難く思います。

絵画クラブ作品展

写真部作品展